

会派視察・研修報告書

会派名 新生自民

代表者名 林 美行

1 日 に ち	令和7年2月3日（月）
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	長崎県佐世保市
3 参 加 者	林美行、葉狩拓也、亀井芳樹、獅子野真人
4 調査・研修の テーマ	佐世保市DX戦略について
5 主な内容	1 佐世保市のDX推進の全体的なビジョンと目標 2 DX戦略を立案する際、特に重要視した課題や背景 3 DX戦略期間中の主な取組と成果 4 DXに関連する人材の育成や確保をどのように進めているのか 5 戦略推進に係る庁内体制 6 DX推進において直面している課題（例：予算、人材、住民の理解など）
6 所感、提言事項、課題等	【林 美行】 「つながる ひろがる 未来のSASEBO」をテーマに掲げる佐世保市DX戦略について視察を行いました。 佐世保市は、単なるデジタル活用にとどまらない、業務や組織までも大胆に変革するDX戦略を、情報政策における最上位の戦略と位置づけ、その実現に向け動いていました。 実現したいビジョンを次のように掲げ、市役所全体がプロジェクトチームのような形で、各部長の個人目標にも位置づけ、全庁を挙げて、大きな時代変化の流れに対応するための変革を進めていました。 ・ あらゆる市民に、より近くで寄り添うデジタル市役所 ・ にぎわい・活力に溢れた、スマートで魅力ある地域 ・ VUCA※時代にスピーディかつ柔軟に対応できる行政組織 ・ 様々なプレイヤーがつながり、共に考え・創るまち ※VUCA…「変動性、不確実性、複雑性、曖昧性」が高まっている、現在の社会情勢を指す。

	佐世保市D X戦略の上位には、佐世保市再興戦略があります。デジタル化の推進、観光振興、産業育成、子育て支援、地域コミュニティの活性化、広域連携など、多岐にわたる施策を包括しているもので、人口減少や少子高齢化といった課題解決をしながら、地域の特性を活かし、新たな価値を創造することで持続可能な発展を目指すものです。デジタル技術の積極的な活用から、農業を通じたコミュニティビジネスの展開、広域連携による地域全体の底上げに至るまで、従来の枠組みにとらわれない取組は注目すべき点です。 さらに、佐世保市D X戦略は、「つながる ひろがる 未来のS A S E B O」の実現に向け、D Xを支える、人材の育成、組織体制の整備やD Xポータルによる取組事例の共有などにも力を入れていました。 令和2年度からの第7次総合計画における位置づけも明確で、国のデジタル田園都市国家構想交付金による補助事業、国や県との連携も明確でした。 多治見市もまち全体が変わっていく時代を認識した取り組みが求められていると感じました。なお、佐世保市は、市民やコミュニティという視点は弱いのかなと思いました。
6 所感、提言事項、課題等	【葉狩 拓也】 佐世保市のD X戦略を視察し、地域課題の解決と持続可能な発展に向けた全庁的な取り組みを確認した。佐世保市は「スマートシティ佐世保」を掲げ、行政サービスの効率化と地域活性化を目指しているが、この取り組みは前市長の強いリーダーシップのもとで始まり、現市長の下でも継続・発展している点が特徴的である。 市全体でD Xを推進するため、各部門が縦割りを超えて連携し、デジタル技術を活用した施策が進められている。また、佐世保市はデジタル田園都市国家構想交付金など、国の補助金制度を積極的に活用し、デジタル化を加速させている。これにより、財源の確保が容易になり、より迅速にデジタル基盤の整備が行われている。 特に注目すべきは、民間人材の積極的な登用である。市はデジタル分野に精通した民間の専門家を戦略立案やプロジェクト推進に起用し、柔軟かつ実践的なアプローチを導入している。これにより、従来の行政手法では難しかった課題解決が加速している。

【亀井 芳樹】

佐世保市では、D Xの推進を市政運営の最重要課題の一つに掲げ、行政サービスの効率化と市民の利便性向上を積極的に進めています。多くの自治体がD Xを掲げながらも、実際にはI C T（情報通信技術）の導入や書類のデジタル化にとどまり、社会全体の変革には至っていないのが現状です。しかし、佐世保市では、D Xを単なる業務効率化の手段にとどめず、人口減少や外国人住民の増加といった社会の変化に対応するための戦略的な施策として位置付けています。

具体的な取り組みとして、スマートシティの推進に伴う行政手続のオンライン化、市民向けアプリの開発と運用、さらには都市インフラのデジタル化を通じた市民サービスの向上が挙げられます。例えば、公共施設の利用予約をオンライン化し、市民がスムーズにアクセスできるようにするなど、利便性の向上に努めています。これらの施策は、単に業務をデジタル化するのではなく、住民の生活をより快適にすることを目的としたものであり、自治体D Xの先進的な事例といえます。

もちろん、こうした施策には相応の財政負担が伴いますが、市はこれを将来的な行政コストの削減や、市民サービスの質の向上に向けた投資と捉えています。佐世保市の取り組みは、他の自治体にとってもD X推進のモデルケースとなり得るものであり、学ぶべき点が多くあると感じました。

【獅子野 真人】

もともとあった庁舎内のI C T戦略にまちづくりを加えて、D X戦略を推進している佐世保市では、デジタル田園都市国家構想交付金などを活用しながら様々な展開をしていた。

特に重要であると感じたのは、データを外部に出すことなく、B I ツール※などを駆使しながら、職員が分析・可視化していること。ただ、スキルをもった人材を育成する点については、やはり難儀しているとのこと。しかし、C D O※補佐官やD Xコーディネーターを外部登用して、しっかり推進していくという体制を見ると、多治見市でも展開していく必要があると感じた。

議員にしても職員にしても知識不足は否めない為、専門家を通じて世界を知ることとは無駄なく効率的に市民の暮らしが良くなる方向に進めると考える。

※B I ツール…企業が保有する大量のデータを収集、分析、加工し、経営判断を支援するソフトウェア

※C D O…Chief Digital Officerの略で、最高デジタル責任者のこと。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、
研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。